

# イチオシ!

BOOK

## 『僕が見たアフガニスタン Afghan Blue』

戦禍、飢餓、極寒という過酷な状況にありながらも、懸命に生きる人々の笑顔や優しさ、強さがあるアフガニスタン。本書は、1998〜2008年までの10年間、刻々と変わる不安定な情勢下で独自取材を粘り強く続けてきた報道写真家の久保田弘信氏が、その希望に満ちた人々のありのままの姿をとらえた写真集。アフガニスタンに対しJICAは、難民の保護、復興支援、平和構築など、さまざまな協力を行っている。「アフガニスタンの人たちの現在、そして未来に思いをはせていただきたい」―緒方貞子理事長推薦の一冊。

この本を3人の方にプレゼント  
詳細は38ページへ



久保田 弘信 写真  
虹有社  
2,100円(税込)

BOOK

## 『放浪の作家安藤盛と「からゆきさん」』

大正から昭和の前半にかけて、シベリア、満州、台湾、支那(中国)、フランス領インドシナ(ベトナム、ラオス、カンボジア)、南洋群島などを放浪し、海外在住の日本人の暮らしや現地の民族・風俗などを旅行記や小説にして世に送り出した作家、安藤盛。本書は、安藤の人生をたどりつつ、彼が海外で出会った「からゆきさん」の嘆きと望郷の声を紹介している。「からゆきさん」とは、19世紀後半にアジア各国に渡り、娼婦として働いた日本人女性。正当な女性とみなされず、安藤自身も最初は醜業婦しゆうごふと「からゆきさん」をさげすんでいたが、旅を通じて彼女たちの心に触れ、作品では一人の人間として描いている。



青木 澄夫 著  
風媒社  
1,050円(税込)

この本を1人の方にプレゼント  
詳細は38ページへ

EVENT

## 海のエジプト展

～海底からよみがえる、古代都市アレクサンドリアの至宝～

約2000年前、かのクレオパトラが愛したといわれるエジプト第2の都市アレクサンドリア。「海のエジプト展」は、地中海に面した海底遺跡から発掘された至宝を紹介する国際巡回展。約5メートルのファラオの彫像やヒエログリフが刻まれたステラ(古代エジプト文字が刻まれた石碑)など、約490点が日本で初公開される。

会 期：6月27日(土)～9月23日(水・祝)9時半～18時(入場は17時まで)  
会 場：パシフィコ横浜・ホールD(神奈川県横浜市)  
参加費：大人2,300円、高校生1,300円、小中学生800円(前売り券・団体券あり)  
問：展覧会ダイヤル  
TEL：0570-060-060  
URL：http://www.asahi.com/egypt/

MOVIE

ごみ捨て場で生きる人々を描いたドキュメンタリー

## 『BASURA バスーラ』

フィリピン・マニラ近郊の巨大なごみ捨て場「スモーキーマウンテン」。“貧困の象徴”ともされるこのごみ捨て場には、40年以上前からごみを拾って生計を立てる人々が暮らしていた。ところが1995年、フィリピン政府により閉鎖。人々は、スモーキーマウンテンのすぐそばに建てられた仮設住宅に移り住むこととなった。そんな彼らを訪ねた四ノ宮浩監督が見たものは、新たに作られたごみ捨て場で以前と変わらぬ生活を続けている人々の姿だった。95年からスモーキーマウンテンを幾度となく訪れ、貧困と飢餓の中を生きる人々を見つめてきた四ノ宮監督。『忘れられた子供たち』『神の子たち』に続くドキュメンタリー映画の第3作。



映画「BASURA バスーラ」より

2009年/日本/105分  
監督・編集：四ノ宮浩  
撮影：大廣康夫  
公開：6月下旬から東京都写真美術館にてロードショー  
URL：http://basura-movie.com/